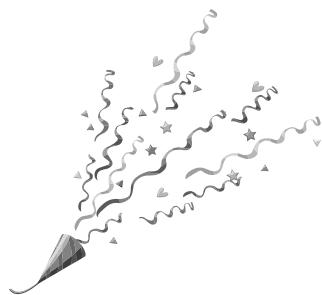


# 平成24年度 第32回 中区明るい選挙推進作文コンクール



## 入賞作品集



## 平成24年度 第32回 中区明るい選挙推進作文コンクール

「中区明るい選挙推進作文コンクール」は、大切な選挙や、選挙につながる「まちづくり」をテーマとした作文を夏休みの課題として区内在住在学の小・中学生から募集し、政治や社会の仕組みに関心を持ってもらうとともに、選挙に関する意識を社会的にも高めることを目的として、毎年開催しています。

今年度は、小学生A部門(1～3年生)に204作品、小学生B部門(4～6年生)に267作品、中学生部門に103作品、合計574作品もの応募が寄せられました。応募作品は、区内小・中学校教諭、中区明るい選挙推進協議会会長、中区選挙管理委員会委員長、中区長により審査され、各部門において金賞1名、銀賞2名、銅賞3名、合計18の優秀作品が選ばれました。



### ■小学生A部門(1～3年生)

テーマ 「わたしのまちのすきなところ」

### ■小学生B部門(4～6年生)

テーマ 「より良いまちをつくるために私たちにできること」

### ■中学生部門

テーマ 「選挙について考える」



「中区選挙のページ」にも入賞作品が掲載されています

<http://www.city.yokohama.lg.jp/naka/project/election/event/>

目次

― 小学生A部門（一～三年生）―

・ 中区長賞（金賞）	元街小学校	二年	高山	莉子	… 2
話しかけてくれる町					
・ 銀賞	横浜小学校※	二年	水上	京香	… 3
わたしの大すきなまち	大鳥小学校	三年	木村	和希	… 4
ぼくの大すきな本牧の海と山					
・ 銅賞	間門小学校	三年	山崎	瑞恵	… 5
まちを見下ろす山ちよう公園	間門小学校	三年	横山	祐貴	… 6
楽しい通学路	立野小学校	三年	白井	花凜	… 7
通学路で通る道					

― 小学校B部門（四～六年）―

・ 中区選挙管理委員会委員長賞（金賞）	元街小学校	六年	金子	なつみ	… 8
私がいえがく中区の未来					
・ 銀賞	横浜小学校※	六年	太田	雅子	… 9
あいさつ～みんながつながる言葉～	大鳥小学校	六年	丹波	百音	… 10
横浜港を知ってもらえば					
・ 銅賞	元街小学校	五年	野口	萌	… 11
「中区小学校クリーン隊」	本牧小学校	五年	島袋	莉鈴	… 12
人とまちを考える	立野小学校	六年	三宅	智菜	… 13
高齢者と共に歩む町					

― 中学生部門 ―

・ 中区明るい選挙推進協議会会長賞（金賞）	吉田中学校	三年	原田	夕希	… 14
一つの票で未来は変わる					
・ 銀賞	仲尾台中学校	三年	渡邊	海斗	… 15
選挙について考えた六年間	本牧中学校	三年	井上	恵	… 16
公平な投票をするために					
・ 銅賞	仲尾台中学校	三年	沢村	勇樹	… 17
国籍の壁	本牧中学校	三年	野田	瑠華	… 18
満十五歳からの選挙権	本牧中学校	三年	遠島	奈都葵	… 19
身近にある選挙					

※横浜小学校…横浜国立大学教育人間科学部附属横浜小学校

## 小学生A部門

### ☆☆☆ 中区长賞（金賞） ☆☆☆

「話しかけてくれる町」

元街小学校 二年 高山 莉子



わたしは、元町しよう店がいきです。それは、はじめて一人で買いものをした、おかしやさんがあるからです。そのお店には、外国のおかしや、のみものがたく山あって、わたしのすきな、あまくてすっぱいグミもあります。

お店の前を通ると、お店の人がえ顔でわたしを見ていました。一人で買いものをしたと思います。お店の前でおかあさんからお金をもらってドキドキしながらお店の中に入りました。お金をおとさないかな。お店の人は、やさしいかな。とこわかったけど、やってみようと思いました。お店の人は、え顔でした。「一人で買いものできるの。」とお店の人が話しかけてくれました。わたしは、「はい。」とこたえました。お店の人は、「ありがとう。さようなら。」と言ひ、わたしは「ありがとうごさいます。さようなら。」と言ひました。大人になった気分であれしかったです。今どは、おとうにもお買いものができそうだから一しよに行きたいと思ひました。

このしよう店がいに、わたしが友だちやかぞくみんなであく行く。パスタやさんややきたてのいいかおりがするパンやさんもあります。読みたい本がある本やさん、クリスマスツリーのろうそくを手づくりできるお店、おもちゃや、かわいいシール、おかしを見ていて買いたくなるお店があります。

どの店にもやさしそうな顔で話しかけてくれる人がいます。そんな元町しよう店がいくがあるこの町がすきです。

#### △講評▽

高山さんがはじめて一人で買いものした商店街。大好きな理由が見たこと聞いたこと感じたことをもとに書かれていて、自分も商店街で買いものしているかのような気分になりました。たくさんの魅力的なお店と笑顔でやさしく話しかけてくれる店員さんに出会えて、はじめての一人での買い物がドキドキしながらもうれしかった気持ちがあくさん伝わってきます。

中区には元町商店街をはじめてとして、横浜を代表するすてきなところがたくさんあります。そして優しく話しかけてくれる人がたくさんいることで、さらに魅力あるまちになることであしよう。

これからも中区のすきなところをたくさん発見していつてもらいたいと思ひます。

☆☆☆ 銀賞 ☆☆☆

「わたしの大すきなまち」

横浜国立大学教育人間科学部附属横浜小学校 二年 水上 京香

あさ、へやのまどをあけると

「ポーツ、ポーツ」

と、ふねのきてきの音が聞こえるときがあります。

「おはよう、今日もがんばるぞ」

と、言っているようでわたしまで元気をもらいます。わたしは海があつてみどりが多い「よこはまのまち」が大すきです。

はじめて、じてん車にのれるようになった山下こうえんも目の前に海がある大すきなこうえんです。春はさくらやバラがさいていてなつになる前は、あじさいやしろつめ草がさきます。あきはいちようがきれいな黄色にかわつて、ふゆになるとおちばが黄色いじゅうたんのようになってとつてもきれいです。一年中、色いろな色にかわつており紙のようなカラフルできれいなこうえんです。六月ごろになるとしろつめ草がたく山さいて四つばのクローバーをさがしたり、かんむりやゆびわをつくつてあそびます。お花のようせいになったみたいです。まほうをかけられたようになふしぎなこうえんでわたしは大すきです。

そして、いへの近くには元町があります。わたしが一ばんおどろいたのは、ポストの色です。赤いポストしか見たことがなかったのはじめて見たときは、びつくりしました。くろいコートをきているようでとつても、おしやれに見えました。中かがいも大ぜいの人でいつもにぎやかです。色いろなほう言で話したり、わたしの知らないがいこくごをつかつて話していました。わたしは、よこはまのまちがすばらしいところだからいつもたく山の人たちがあそびにくるのだと思います。

せかい中の人が、一どは行つてみたいと思うような「まち」になったらすぐすてきなことだと思えます。わたしは、このまちにすんでいてまい日とてもたのしいです。元気になる大すきなまちです。

△講評▽

朝、汽笛の音がなりひびくまちは、それほどないと思います。それだけ海に近い横浜のまち、中区のまち。しかしそのみりよくは、水上さんの言うように海だけでなく、四季によってまるで折り紙のようにカラフルに色を変える、自然豊かなところにもあるでしょう。

この作文からは、山下公園が季節によって表情を変える様子や、そこで楽しく遊ぶ水上さんの様子が、ありありとうかんできました。まほうにかけられたような不思議な公園だからこそ、そのみりよくを求めてたくさんの人たちがそこをおとずれるのでしょうね。

☆☆☆ 銀賞 ☆☆☆

「ぼくの大すきな本牧の海と山」

大鳥小学校 三年 木村 和希

ぼくは、海と山がある本牧の町が大好きです。海では、魚がいっぱいいます。ボートにのつておきていなどに行くときシーバスがつれたりして楽しいです。海ではカサゴやアジ、ハゼ、メバルもつれます。ついたらぼくも、魚をさばくのを手伝って食べます。とてもおいしいです。前はなかなかさわれなくてさばけなかったけれど、パパたちとつりに行くようになって、エサの虫もさわられるようになったし、魚もさわってさばけるようになりました。自分でつってさばいた魚は、スープでかかった魚よりもおいしくかみます。せっかく海がたくさんあるところだから、もつとつりができるところがたくさんあればいいなと思います。本牧の海は、あまりゴミがういていないのもいいことだなと思います。

ぼくのすきなところはもう一つあります。それは、山でクワガタやカブト虫を、つかまえられることです。ぼくの家のおすぐ前は、本牧山ちよう公園です。いつでもすぐに行けて、あそべます。虫をつかまえてきて育てるのがとても楽しいです。こん虫ゼリーをやったりするのも大すきです。山ちよう公園は、虫とりだけでなく広場ではしりまわれるし、犬のさん歩もできとてもいいところですよ。山ちよう公園の森のおいもぼくは、すきです。ほかの山とはちがういいにおいがあるので。

このように、本牧の町は、しぜんがたくさんあつてとてもいいところですよ。これからも本牧の海をきれいにし、魚がたくさんやってくる、青い海にしていきたいです。そして、ゴミをすてないで、山や森のしぜんも、大切にしていきたいです。

△講評▽

本牧のまちのすきなわけが、とても分かりやすく書かれています。

海が近くてつりはできるし、山や森もそばにあるから虫とりもできるなんて、とてもぜいたくなまちですよ。そんな本牧のまちのすばらしいところを、木村さんは思う存分楽しめていますね。きつと木村さんのようなお友達が、これからの本牧のまちを守っていくのだと思います。海や山をきれいに保つて、いつまでも美しい本牧のまちにしていきたいですね。

☆☆☆ 銅賞 ☆☆☆

「まちを見下ろす山ちよう公園」

間門小学校 三年 山崎 瑞恵

山ちよう公園は、いろんな所からさかやかいだんを登って行くことができず。名前のおり山の上にあつて、とっても大きくて、まいごになってしまいそうな公園です。山ちよう公園からは、三けいえんやじゆうたくがいや学校など、わたしのまちのいろんなものが見えます。少しはなれた所には、ランドマークや海も見えます。わたしは、山ちよう公園からのけしきが大すきです。

春には、お花見ができてさくらがとてもきれいです。山ちよう公園にはたくさんのお花見の木があつて、さくらの花の見ごろになると、お花見をする人ですばいになります。わたしも毎年、さくらの花を見ながら、家族や友だちとおべんとうを食べるのを楽しんでいます。

わたしは山ちよう公園に行くと、草のさかでねころがつてごろしてあそぶのがすきです。ダンボールをおしりにしてすべることもできます。木もいっぱいあるので木のぼりもできます。いろんな所に何人も登れるような大きな木があつて、ものすごくおもしろいです。

それに、山ちよう公園は、小学校で地しんなどがおきたときのひなん場所になっています。今年の六月につなみをそうていしたひなんくんれんがありました。間門小学校からみんな、ぼうさいずきんをかぶつて、アメリカざかをのぼつて山ちよう公園に向かいました。しばらくお父さんやお母さんが来るのをみんなで待ちました。山ちよう公園は高くて広くて安全です。

山ちよう公園は、わたしのまちのだけれもがつかえる楽しい公園です。山の上からいつもわたしたちを見まもつてくれているような気がします。

△講評▽

山ちよう公園からは、山崎さんの住むまちだけでなく、ランドマークや海まで見えるのですね。山ちよう公園は、まるで中区すべてを見下ろしているようですね。

春にはお花見をしたり、坂道でだんボールをおしりにしてすべつて遊んだり、木登りをしたりと、楽しいところがたくさんある山ちよう公園。この作文を読むと、すぐく行きたくなつてしまいます。

今日も山ちよう公園は、たくさんの人たちを笑顔にして、山崎さんたちを見守つてくれているのでしょうかね。

☆☆☆銅賞☆☆☆

「楽しい通学路」

間門小学校 三年 横山 祐貴

毎朝、通学路の途中で、交通安全のために立って声をかけてくれるおじさんたちに会います。

「おはよう。」「いってらっしゃい。」と言われると元気がわいてきます。

家を出るのがおそくなってしまった日には、「今、八時二分だよ。」と声をかけてもらうと、元気と同時にがんばって急いで行こうと思います。いつも見守ってもらえるから、安心して学校に行けてありがたいです。

せまい道から出て、広い本もく通りを通る時、春の新学期にはさくらの花がずっと続いてきれいにさいています。しばらくすると、きらきら太陽の下の新しい緑色の葉っぱになります。夏はせみが鳴いていて、秋はいちようの落ち葉だけでなく、銀なんの実もいっぱい落ちていて、どのきせつにも自ぜんが毎日楽しめます。

歩いているとお魚屋さんが「元気？いってらっしゃい。」と声をかけてくれたり、パン屋さんからやきたてのいいにおいがしてきたり、今日は何があるかなと、朝からわくわくしてきます。帰りに友達と話しながらのんびりこの道を帰ると、またちがう発見があったりして楽しいです。

日曜日の朝はこの通学路をおくれないように全力で、自転車のペダルをこいで学校へ向かいます。少年野球の練習場は、ぼくの学校の広いグラウンドです。

だから学校のある日も、日曜日も、いつもいつもぼくは楽しくこの道で学校に通っています。

△講評▽

横山さんの通学路からは、まるで生き物のような息吹を感じます。その道にたましいをあたえているのは、まちに住むたくさんの人であり、四季をいろどる美しい景色であり、そして横山さんもふくめたたくさんの子どもたちなのですね。きつと横山さんがこのまちを愛しているからこそ、さまざまなまちの良さに気づくことができているのでしょう。どうかこの先も、自分が住むこのまちを愛し、またちがった良さを発見していつてください。



☆☆☆銅賞☆☆☆

「通学路で通る道」

立野小学校 三年 白井 花凜

私の通学路で通る大和町商店街や本もく通りは、いい所がたくさんあります。七夕のじきになると、いろいろな所にたんざくとペンがおいてあり、ささの葉につけられるようになっていきます。あとでささの葉を全部あつめてじんじやにおいでいました。

夏のあついじきには、バケツとひしゃくがおいてあり、うち水ができるようになっていきます。

新しい一年生が入ってくる入学式のじきには、近所の人たちがじゅんばんに黄いろいはたをつかって、あぶなくないようになっています。

夏休みのじきには、朝早くから山手公園でラジオ体そうをてつだってくれます。

とくによいと思ったのは、夏のおまつりやおみこしです。おみこしときには、みんながきょう力してかっいでいてすばらしいと思いました。休けいする所ではお茶やスイカを用いしてくれたり、おみやげにおせきはんをくれてうれしかったです。

私はそんな大和町商店街や本もく通りが大すきです。

私が大人になったら、大和町商店街や本もく通りなどの地いきの行事になるべくさんかして、みんなが楽しくくらせる町にしたいと思います。

△講評▽

白井さんの通学路である大和町商店街の良いところをたくさん教えてもらいました。特に夏には、七夕があり、ラジオ体操があり、そしてお祭りがありませんね。きつとこのまちでは、昔から行われていたのだと思います。それを長年、このまちにすむ人たちが受けついできて、今に至っているのでしよう。

白井さんもそんな素敵なまちの行事に、ぜひこれからも参加して、それを次の世代へ受けついでいってください。

## 小学生B部門

### ☆☆☆ 中区選挙管理委員会委員長賞（金賞） ☆☆☆

「私が思いえがく中区の未来」

元街小学校 六年 金子 なつみ



「あら、これお父さんだわ。」祖母が急におどろきの声をあげた。「昭和の横浜」という写真集と一緒に見ていたときのことだ。祖母が指をさしている写真には私も小さい頃からよく遊んだ敵島神社の公園が写っていた。そこには紙しばいを見ている子供たちと共にひいおじいちゃんと思われる人もいた。今ある姿とほぼ変わりない状態であった。十二歳の私が見ても一目でその場所だとわかる程だ。五十年近く経ってもほとんど変わらない、その姿を見て感じが深く感じた。

しかし変わっていない場所はほんの一部だということに気づいた。中区は大きな変ぼうをとげたのだ。そこには、まさに中区の歴史がつづられていた。空しゅうにより山手付近から関内あたりまで焼け野原になった町並み、アメリカ兵の駐屯地に建てられたカマボコ兵舎、人々の期待と夢を乗せた路面電車。そして何より目に焼きついたのはどんな困難にも立ち向かっていく人々の笑顔だった。ページをめくるたびにこの町を築いてきた人々の強さとたくましさを感じた。

私の近所にも戦後を生きぬいたおばあちゃんがいる。昭和初期生まれの成田さんだ。私の小学校の大先輩でもある。以前、成田さんに元街小学校の昔についての話を妹と一緒に聞きに行った。戦争中はものが配給制だったことや学校卒業後は米軍の工場で働いた時期があったことなど明るく話してくれた。この時代の人たちのがんばりがあったからこそ「今」があるのでないだろうか。

現在、その時代を生きた人たちはいわゆる「高齢者」とよばれる年齢になっている。ニュースや新聞で少子高齢化の問題がよく取り上げられるが、私の住む町も決して例外ではない。多くのお年寄りがいて一人暮らしだったり介護が必要だったり、様々な問題をかかえている。

「今」ある幸せは今の高齢者の人たちが多くの困難や苦しみを乗りこえ築いたものである。そのことに深く感謝しながら私のできることを考えてみた。お年寄りにやさしく接する、声をかけるなどまずは身近な人たちに対して思いやりをもつことだ。高層ビルが立ち並び、どんなに町が立派になってもそこに住む人たちの心が通じあわなければ、それはとてもむなしことだろう。人との交流を大切にし、誰もがお互いを思いあえる町にしていきたい。たくさん人の努力によってこの町は築きあげられてきたのだ、ということを中心に刻み、今度は私たちが次の時代の担い手として町をつくっていかねばならない。感謝の気持ちを忘れずに心と心が通じあい、たくさんさんの笑顔があふれる町、それが私の思いえがく未来の中区の姿なのだ。

#### △講評▽

御祖母様と一緒に見た写真集や、近所の人のお話から、中区の「今」がたくさんさんの人の努力によって築かれてきたことに気付いた金子さん。そのような人々への感謝の気持ちがよく伝わってくる作品です。

これからのまちづくりのためには、そんな感謝の気持ちを忘れずに、さらに人々の心の通じ合いが大事であることが、分かりやすく書かれています。

一人ひとりが金子さんのような気持ちを持つことができれば、きっと笑顔があふれるまちになることでしょう。これからもまちを思う気持ちをもち続けてくれることを期待しています。

☆☆銀賞☆☆

「あいさつ〜みんながつながる言葉〜」

横浜国立大学教育人間科学部附属横浜小学校 六年 太田 雅子

いつも、何気なくしているあいさつ。でもこのあいさつはとつても大切なことです。たった一言ですが、それをすることによって、みんなが楽しくなる、と思います。

朝、学校へ行く時、当たり前ですが、色々な人と出会います。その時にあいさつをすると、気分が明るくなりませんか？あいさつをかえしてくれる時、相手も笑顔でいってくれれば、私も今日、がんばろう、という気もちになれるし、あいさつをすると、自分と相手をもっと近づけます。そんなあいさつをみんながやったらどうでしょうか。きっと、笑顔で過ごせて、とてもいい日が過ごせると思います。

しかも、あいさつで、色々な人々の輪が広がります。あいさつはコミュニケーションをとる役割として重要な意味を果たします。人と人が接する時、お互いに良い気もちで過ごすことができます。

それだけではなく、あいさつは色々なところで使われています。ありがとうございますいますやごめんなさい、おめでどうございます、などもあいさつの一部ではないでしょうか。その言葉をかけたり、言うことで、相手との距離のバランスがとれると思います。

そして、あいさつは、年上の人でも、年下の人でも、だれとでもできます。だから、あいさつがあれば、知らない人でも、ありがどうございます、という感謝の言葉や、ごめんなさいと謝ることもできます。知らない人でも、いい関係をつくるきっかけにもなる、と思います。

そうしてあいさつが広がっていくと、町の人々はすがすがしい気もちで一日が始まり、終わります。

あいさつをすると、力が湧いてきて、良い気もちになりますか？

そう、あいさつこそが、わたしたちの住む町をきれいに、美しく、そしてたのしくするので。

だれとでも、そしてだれでもできるあいさつ。あいさつは、声をかけるので、声をかけるという勇気が必要です。

でも、その勇気で、人は笑顔になれて、自分も笑顔になります。なぜなら、あいさつは声をかけるだけで笑顔になれる、魔法の言葉だからです。

人々を幸せに、そして笑顔にしてくれるあいさつ。勇気を出して、笑顔で、あいさつをしてみませんか？その勇気とあいさつは、相手はしっかりと受け止め、また、心からしっかりと、きらめいているあなたが投げたボールがかがやきを増し、あなたの心へかえってきます。人々を結ぶ、コミュニケーションが。

△講評▽

人との関係をよくし、気持ちよい一日にしてくれるあいさつは、太田さんの“魔法の言葉”という表現がぴったりですね。

勇気をだした一言のあいさつが、人と人とのつながりを生み、笑顔あふれる町になっていくということがよく伝わってくる素敵な作文です。

☆☆ 銀賞 ☆☆☆

「横浜港を知ってもらえば」

大鳥小学校 六年 丹波 百音

私が住んでいる中区には、とても美しい海と港がある。家のすぐ近くにある山頂公園では、横浜港を一望でき、船の鳴らす汽笛が聞こえてくる。この町で育った私にとって、中区と言ったら海、そして横浜港。小さい頃は本牧ふ頭の近くのマンションに住んでいて、自宅の窓から毎日、色とりどりのコンテナばかり見ていたので、私の中では“貿易港”のイメージが強くなってしまうが、より多くの人に海や港に親しみを感じてもらうための取り組みがあることや、世界との交流が行われていることを知り、ますます興味がわいてきた。

毎年六月、横浜港はたくさんの人で賑わっている。港や海への理解と親睦を目的としたカッターレースが行われているからだ。私は七月に、学校の体験学習で伊豆半島にある子浦に行った時、同じ学年のメンバーとチームを組んで、カッター記録に挑戦した。チームのみんなで息を合わせて、こいだり、声を出すことで、最初はバラバラだったチームが一丸となり、団結することが出来た。目標としていた学校新記録を出すことはできなかったものの、海と接することの素晴らしさを改めて感じる事が出来た。さらに、静岡県、南伊豆の町役場職員も横浜のカッターレースに参加していたことを知り、中区だけでなく、他の県の人たちまで横浜港に関心をもってもらっていることが、とても嬉しく思えた。このような取り組みを通じて地域が活性化されることは、私達が大人になる頃の横浜や中区の発展につながると思う。だから、今まで以上に、横浜港について知ってもらうためのイベントに積極的に参加したり、お手伝いをしたりして、貢献していきたいと思う。

また、横浜の海や港をアピールする国際的なイベントとして、トライアスロン大会も開催されている。今年のロンドンオリンピック競技にもなっているトライアスロンは、エリート選手からジュニアまで参加でき、山下公園や赤レンガなど、横浜の景色を楽しめる。もちろん、応援している方も目の前を次から次へと選手が通っていくので、ワクワク、ドキドキ。私は、ずっと水泳を習ってきたので、間近で観戦できることを、とても楽しみにしていた。会場は大勢の人の声と熱気で包まれていて、山下公園で行われたスイムは迫力があつたが、中でも感動したのが最後のラン。苦しいはずなのに、まわりの声援に笑顔で応え、違う国の選手も日本の選手と一体となって、ゴールを目指していた。トライアスロン大会は、美しい海と港があるからこそ可能な数少ないイベントであり、中区が玄関となって世界と交流できることは、素晴らしいことだと思つた。

カッターレースや、トライアスロン大会を通じて、古くからの歴史を持つ横浜港が、もともともと、多くの人に愛され、地域の人達と世界をつなぐ架け橋になって欲しいと思う。

△講評▽

貿易港としてもカッターレースやトライアスロンなどのイベントで賑わう場所としても、丹波さんが横浜港に愛着をもっている様子が作文からよく伝わってきます。

横浜で行われるイベントにこれからも積極的に参加し、他県や世界とのつながりを肌で感じていってほしいです。そして、丹波さん自身が横浜と世界をつなぐ素敵な架け橋となつていってくださることを期待しています。

☆☆ 銅賞 ☆☆☆

「中区小学校クリーン隊」

元街小学校 五年 野口 萌

「ド、ドーン」横浜港をいろどる夏の風物詩といえば、臨港パークと山下公園で開さいされる花火大会です。色とりどりの花火が夜空一面に一万発以上も打ち上げられ、横浜内外からの多くの人でにぎわいます。その数は何と十九万人です。観光が栄える事は、横浜市にとっても中区にとっても良い事だと思っておりますが、個人的に気になつていて、どうにかならないものか…と思う事があります。

それは、花火大会翌日のゴミの量の多さです。花火会場周辺だけでなく、街全体にゴミが落ちています。見物客によつて出たゴミが収集コンテナからあふれ、山積みになつていたり、駅までの通りにはペットボトルやうちわ、食べ物の袋等が捨てられています。美しい花火にみりようされただけに、翌日の街の姿にとっても悲しい気持ちになります。

このゴミはどうなるのだろうか？と疑問に思つたので、ゴミ処理を担当する横浜市資源循環局にたずねた所、花火大会のゴミの回収は市のゴミ収集ではなく、花火大会主さい者側が業者に回収してもらつてゐるとの事です。

他にも調べてみると、毎年花火大会後に出るゴミの量は、二百から三百キロにもなるそうです。普段、市が回収している量よりはるかに多く、地元企業をはじめ、いくつかのボランティアの方々が早朝からゴミ拾いや、分別の手伝いをしてくださっています。私はその姿を見かけた時、私にも何か出来ないかな、美しい街・横浜を残すために出来る事は何だろう…と思ひました。

そこで考えたのが「中区小学校クリーン隊」の結成です。中区には小学校がたくさん有り、小学生はたくさんいます。花火大会に向けて、ボランティアをつのり、①準備活動②当日活動③翌日活動の三つに分けてボランティア活動をします。例えば①の準備活動は、ゴミの持ち帰りやマナーを呼びかけるポスターを作り、会場周辺や最寄りの駅や交通機関にはつてもらいます。道徳の授業で作つても良いと思ひます。②の当日活動は、会場でゴミの持ち帰りを呼びかけたり、ゴミ収集コンテナの場所を案内したり、分別作業を行います。③の活動は、ゴミ拾いや引き続き分別作業を行い、ゴミの量を集計してレポートにまとめます。後日、授業で話し合つてみたり、学校祭の様な行事で発表しても良いと思ひました。もちろん、この活動は小学生だけでは出来ない事、難しい事も出て来ると思ひますが、先生や主さい者の方々にも協力をお願いして、実行出来たらすばらしいなと思ひます。小学生が呼びかける事で、見物客の大人もマナーを守ってくれるかもしれせん。また、私達もボランティア活動で、ゴミの量やリサイクルの事を学べる良い機会にもなります。

特に中区は観光地なので、パレードやイベントが年に何度か有ります。そんな時は「中区小学校クリーン隊」の出番です。この街がずっと美しい街でいられます様に…。

△講評▽

野口さんが見つけた横浜の課題を、自分の事として受けとめ、それを解決するために、小学生の自分にもできることは何かないかと考えた姿勢が素晴らしいです。

活動内容まで具体的に書いている「中区小学校クリーン隊」。美しい町「横浜」を守るために役に立ちたいという強い思いが伝わつてくる作文です。

☆☆☆ 銅賞 ☆☆☆

「人とまちを考える」

本牧小学校 五年 島袋 莉鈴

みなさんは、より良いまちをつくるために何を行っていますか？わたしは、人と人との関わりを広げ、誰に対しても差別をつくらない、明るく元気なまちづくりをしたいです。なぜこのようなまちづくりをしたいと思いますかというところ、私はこの夏、神社の祭りに参加し、みんなが、「このまちは良いまちだな。」と思っているということが、心に残ったからです。そして、「人と人との関わりによって、まちは生まれ変わるんだな。」と感じたからです。

八月のもう暑の中、神輿の行事に初めて参加しました。最初は、大変でつかれてしまふだろうと少し不安でした。けれども、やってみると、人々の活気と熱意にあつとうされました。そして、「このまちを愛している人々がたくさんいるんだ。」と感じました。一人ひとりが力を合わせ、愛し続ける事によって、まちの未来に希望があふれると思えました。

神輿の行事に参加した時、周りにはたくさんの方がいました。その中には、子供、大人、お年寄りの人、ボランティアで来てくれた、活気のある人達、外国人。これがまさしく、十人十色だと分かりました。感じ方、考え方、話し方など、誰一人として、同じ人などいません。けれど、みんな楽しくゆかいにやっていました。「おたがいの人の良さや短所をみとめ合ってこそ心が一つになるのか。」と思いました。どんな人でも自由と平等があり、幸せに生活する事ができるので、差別をつくらないまちづくりを目指すことができると思います。

私は以前、人に対して偏見を持つ事がありました。けれど、神輿の行事に参加してから「一人ひとりの個性は、一人ひとりの大事なものだ。」と分かりました。他人同士で集まる機会だからこそ、まちが一つになり、新たな発展につながると思います。たがいにとんな人も、人間として「認める」ことが必要であると思えました。一人ひとりが持つ「個性」をたくさん集めて協力し合うことで、まちが大きくなるのだと感じました。

祭りの時、地域のケアプラザに行きました。昔ながらの神輿に、お年寄りの方々は喜んでいました。まちには、お年寄りだけではなくしょうがいのある人や、幼児達などがたくさんいます。私は、みんながくらしやすいよう、工夫する事が大切だと思つたので、人と人との交流を深めることのできるサービスをしたいです。例えば、町内大会でミニ運動会を開き、協力し合うということです。

一人ひとりの個性、知恵、情熱を広げること、きつと胸がわくわくする新しいまちが待っているはずです。私がこの夏経験した事を、周りの人に伝えていきたいです。

△講評▽

神輿の行事での様々な人との出会いから、一人ひとりみんなちがって、みんなよさがあるということに気がついた島袋さん。この作文を読んだ中区のみなさんが、身近な人と互いによさを認め合い、力を出し合い、一人では思いつかないようなアイデアで、よりよい町づくりをしていってくださることを期待したいです。いろいろなたちとのつながりを大切にしていこうという心が伝わる、温かい作文です。

☆☆銅賞☆☆

「高齢者と共に歩む町」

立野小学校 六年 三宅 智菜

神奈川県は長寿県で、横浜には日本全国で男性1位、女性7位になった町もある。しかし、お年寄りの増加により認知症患者も増えているという。

私の祖父も先日旅行中に階段で転倒し、その後物忘れがひどくなった。心配になり病院へ行ったが、検査の予約がなかなか取れなかったり、時間がかかったり、費用がかかるなど不便な点がいくつもあったということだ。また、母の知り合いの家族がけがをして入院中に認知症が進み、退院後の老人ホームを探したがなかなか見つからず、苦労したという話も聞いた。もっとお年寄りが安心して暮らせる設備や場所が必要だと思った。

今、私が住んでいる近くの駅では、工事が行われている。エスカレーターやエレベーターが出来るのだ。もし、まだ階段だけの駅や公共施設があるならば、どんどん改善すべきだと思う。私は、その駅から坂道を延々に上がったところに住んでいる。私でもヘトヘトになるのに、坂道の多い横浜に住んでいるお年寄りは、きつと大変だろう。せまい道などを走るミニバスを増やし、病气やけがの人はタクシーを利用しやすくするなど、便利な生活が送れる方法はないだろうか。

さらに、最近老人の孤独死などという悲しいニュースを耳にする。人と人とのふれ合いが減っているのが、原因のひとつではないかと感じる。私が以前、関西地方に住んでいた時、知らない人でも気軽に声をかけてきて、おしゃべりすることなどがあつた。バスを待っている

「どこへ行くくん？バス来ないなあ」

とやさしく声をかけてくれた。関西ではそういったことが珍しくなかったが、横浜でバスを待つ時は知らない人と話ほしない。幼い子などは、町中で知らない人に声をかけられたら気をつけなさい、と言われていてのではないだろうか。でも私は、知らない人ともあいさつを交わせるようなあたたかい町が、理想だと思う。祖父母が遠くに住んでいて、お年寄りとおふれ合う機会の少ない子供たちもいるだろう。例えば、子供たちが老人ホームを訪問したり、逆に学校に来ていただき昔のことを教えてもらったり、交流を深めればお年寄りをもっと身近に感じるのはないだろうか。

私の祖父は幸い軽い脳梗塞だったので、今は普通に暮らしている。病気になった時一番大変だったのは、迷子になってしまったことだった。けいたい電話はつながったが、どこにいるのかもわからない様子だったので、近くににいる人に電話を代わってもらった。するとその人は事情を知り、わざわざ付きそって祖父を電車に乗せてくれたのだ。おかげで祖父は無事に帰宅でき、本当に助かった。

私も困っているお年寄りがいたら、手を貸してあげられるようになりたい。環境を整えることも大事だが、人々が身近なお年寄りに手をさしのべてあげる、それがよりよいまちづくりにつながっていくと信じている。

△講評▽

ご家族の体験から、どうしたら誰もが安心して暮らせる町になるか一生懸命考えた三宅さん。環境を整えるだけでなく、同じ町で一緒に暮らしている人々が身近なお年寄りに手を差し伸べてあげることがよい町づくりにつながるという結論に至り実践しているという気持ち素晴らしいです。これから、町の人に手を差し伸べ、声をかけ、共に歩んでいけるバリアフリーな横浜をつくっていかけてくれると期待しています。

## 中学生部門

### ☆☆☆ 中区明るい選挙推進協議会会長賞（金賞）☆☆☆



「一つの票で未来は変わる」

吉田中学校 三年 原田 夕希

選挙で投票をするという事は、政治家でなくても政治に参加するという事です。しかし、最近若い人達の投票率が減っているそうです。平成二十三年四月十日の横浜市議会議員選挙の年齢層別投票率を見ると、一番高かったのは六十五歳から六十九歳の五十六・六三パーセント。それに比べ一番低かった二十五歳から二十九歳はなんと二十七・五九パーセントでした。約四人に一人のしか選挙に参加していません。このままでよいのでしょうか。この状態が続くとどうなるのでしょうか。自分なりに考えてみました。

まず、若い人達が投票に参加しないと、当然若い人達の思いや意見は政治に反映されません。しっかり投票に行っている、貴重な若い人達の意見も、反映されるのが難しくなっています。

そうしたら「自分達の思いや意見が反映されない」「自分達の声は届いていないのか」と不満に思う人がでてきます。しっかりと参加していれば届くはずなのに、非常にもつたいないです。

そして「どうせ反映されないのだから」とますます投票に行かなくなる人が増えてしまいかもしれません。このままでは悪循環です。困るのは若い人達だけではないのです。数十年後に投票に行ける私達やその子ども、孫、若い人の声が聴けない政治家、たくさんの方が関わっています。自分達の明るい未来を、自分達で消してしまうのは悲しいことだと思います。今投票に行ってこれからの未来を暮らしやすいものにするのも、投票に行かないでこれからの未来を大変にするのも、どちらも「今」生きている若い人達や将来の私達しだいなのです。

「今の横浜市にはこれが必要だ」

「横浜市にはこんな問題がある。こうしたら解決できるのではないか」

どれも一人一人の大切な「声」です。

どんなに小さいことでも、これからの生活がぐっと変わるかもしれないのです。「どうせ」「別に」と思っていたら何も変わりません。投票に行つて意見を伝えるという事は、それくらい大事なのです。

私達中学生はまだ選挙に参加できませんが、大人になったら投票に行くべきだと思います。今、選挙権を持っている若い人達も、自分達の将来、もっと若い子や孫の世代の為に行くべきだと思います。

投票をして、自分達の意見を伝えて、政治に参加してみませんか。

これからの未来を、明るく暮らしやすいものにする為にがんばってみませんか。

### △講評▽

私たちの様々の意見や要望は選挙で選出された代表者によって国や地方の政治に反映されます。選挙は国民が政治に参加する最大の機会であり民主主義の根幹をなすものです。年齢層別投票率では若年層の投票率が低くこれでは若い人達の意見や要望が政治に反映されないのではないかと分析し、選挙権のある若い人達が傍観者にならずに一人でも多く政治に参加する大事な権利を行使すべきであり、あと数年で有権者になる本人としても選挙では必ず投票したいと願いをこめた力強い作品となっています。



☆☆☆ 銀賞 ☆☆☆

「選挙について考えた六年間」

仲尾台中学校 三年 渡邊 海斗

僕は小学校四年生の頃から毎年、この作文コンクールに応募してきました。この作文を書くようになったことで、「選挙」という言葉に興味を持ち、ニュースで選挙の話題が流れると聞き耳を立てたり、実際に選挙があると両親について行き、投票所の雰囲気を感じたりしてきました。そして、この作文に僕なりの気持を書いてきました。今回はこの作文を書くことの意味について考えました。選挙権がまだない僕達だからこそ見える事、言える事が沢山あり、そしてその作文を読んでもれた有権者の方々が中区に住んでいて良かったなあ、この区をもっともっと良くするために選挙に参加しようと思ひ、投票所へ足を運んでくれたら、それは僕達の思ひも一緒に選挙に参加している気がします。そういう気持ちを込めて、再び選挙について考えてみました。

横浜市の中でも外国人の多く住む町であるこの中区では、選挙権の与えられない外国籍の人も沢山います。でも、その人達も自分の住んでいるこの町を愛し、良くしたいと思っている人も多くいます。その人々の声は、選挙の場に直接行かれない分、選挙権を持っている区民に思いを託しているのです。だから、その一票は一票ではあるけれど、選挙権を持たない外国籍の人々や、僕たち子供たちの思ひを受けての一票だと気づいて欲しいと思ひています。学校の友達や近所の友達の中にも外国籍で将来大人になった時に選挙権を持ってない人が何人もいます。みんなが同じ地域に住み助け合い支え合ひて生きているのですからその人達の思ひも僕の一票に込めて投票所へ向かいたいと思ひます。

中区には歴史的に重要な、ビール・アイスクリーム・テニス・クリーニング業等の数多くの発祥の地が多数存在し、また、「山下公園」、「みなとのみえる丘公園」、「外人墓地」など全国に知られている有名な観光地も沢山あります。こんな素晴らしい所に住んでいるからこそ、これから僕達はその伝統を受け継ぐ日が来るのです。その時にこれまで以上に住みやすく、そして愛される町であるためにも一人ひとりがこれからの中区を考え、そして、選挙によってみんなに選ばれた人々にその気持ちを託し、実現に向けて努力していけたらいいなと思ひています。

もう作文として書くのは最後になります。これまでの六年間で選挙について色々考え、そして学んだことはずっと忘れずにいたいと思ひています。

△講評▽

渡邊さんが、六年間続けてこの「中区明るい選挙推進作文コンクール」に応募してきた思ひが良く伝わってくる作文です。中区で生活していて、この区ならではの課題にもきちんと目を向けています。やがて選挙権を持った時にあなたの思ひが反映される未来になってほしいものです。愛する中区のためにあなたらしい言葉や行動を通して、より住みやすくなるようにこれからもきつと力を発揮してくれると信じています。

「公平な投票をするために」

本牧中学校 三年 井上 恵

選挙。日本では衆議院選は4年に一度、参議院は半数を3年ごとに改選します。たとえ現在の自分はこのような選挙に関わらなくても、一人一人が投票することの大切さについては何回も聞いたことがあります。

投票することは政治を動かす人を選ぶことです。国民の一人一人が同じ一票を出すことができる、一票一票が大切なものとなります。

今年、アメリカの大統領選挙に向けてアイオワ州で共和党の代表を決める幹部会ではミットロムニー氏がわずか8票でリック・サントラム氏に勝ったと発表されました。これまで一票を出さなくても変わりはないとは思っていたけれど、このことを聞くと、一票の大きさが感じられました。

投票するとき、どうやって立候補者の中から一人を選ぶのでしょうか。「立候補者を公平に見て、一人一人の言っていることをよく聞き、自分が最も正しいと思う人に一票を入れる。」そう答えを出してみても、言葉で表してしまえば簡単に聞こえ、すぐに終わってしまいますが、もしその時が来たら自分はどう対応するのでしょうか。立候補者の一人一人についての情報はどこから得るか、その情報の源は信頼できるか、偏見が持たれていないか、立候補者の言っていること、国民に呼びかける約束は守れそうか、その人は現実的な計画を考えているか、立候補者は公平に戦おうとしているか(相手に対して否定的ではないか)などというように色々な条件があり、公平に一人を選べるといえるでしょう。

選挙の様子をテレビで見たりすると、自分がもし今選挙に参加するとしたら、この人に一票入れるだろうと思ったりとき、「なぜ。」と自分に聞き返したことがあります。そのときはしつかり理由を考え、整理することができませんでした。周りの大人の考えを聞き、その考え方を大きく取り入れたり、片方の立候補者の話を聞いたりしていたからだと思います。自分がどう簡単に影響されているのかに気がきました。もちろん、その理由の一つは立候補者についてあまり知らなかったからだと思います。自分から進んで政治、選挙について知ろうと耳を傾けなければ、公平で本当に自分が正しいと思う投票ができないと感じました。

選挙が終わった後も立候補者が約束した物事が実際に職についてからは守られているかもチェックしていくと良いでしょう。このようなことも追っていくことでまた次の選挙でいかせるのではないのでしょうか。自分の考えをしつかり持ち、公平な投票を20才になったらできるようにしておきたいです。

△講評▽

アメリカの大統領選挙に関心を持った井上さん。それを通して疑問に思ったことと、感じたことをしっかりと視点でとらえて文章にしています。自分がこれからどのような生活を送りたいかという課題もきちんと整理してまとめられます。立候補者のことをよく知ることの大切さを訴えた力作だと思います。二十歳になった時に公平な投票ができるよう、これからもさまざまなことに目を向け、耳を傾けてください。

☆☆☆ 銅賞 ☆☆☆

「国籍の壁」

仲尾台中学校 三年 沢村 勇樹

中学生の僕にとって、まだ選挙というものは身近に感じられない。もちろん選挙権も持っていないから、選挙に直接参加したこともない。

今回、このコンクールを機に自分の住んでいる横浜や中区の選挙について興味を持ちました。自分なりに選挙の投票率を調べてみると、投票率自体が年々低下し、しかも中区は横浜市全体の平均以下の投票率であることも分かりました。この事實は、普段、選挙のたびに両親と近所に住んでいる祖父母の投票に付き合っ行っている僕には大きな驚きでした。

そこで、選挙をもっとよく知るためにも、もっと真剣に考えてみようと思いました。それで気になったことがあるのは、日本人以外の人、つまり外国籍の人たちに、日本での選挙権が無いことだ。たしかに選挙の時には、外国の人を見かけることは少ない。それに、僕の横浜に住んでいた外国人の家族も、選挙権が無く、選挙には行ったことが無いと話していた。

横浜、中区は外国との交流がとてまきかんで、町に出ればたくさん外国人を見かける。しかし、この外国人の半分以上は日本国籍を持たず、日本人と一緒に生活をしている人々だと思う。ということは、他の地域に比べて、夫婦でもどちらか一方しか選挙権を持っていなかったり、夫婦そろって選挙権を持っていない家庭が多いということだ。そんな家庭環境では家族全員で「選挙について」話し合ったりするきっかけが無いのではないだろうか。また、そんな環境の中で育った子供は、たとえ日本人で選挙権を持っていたとしても、選挙に対して「無関心」になり、当然選挙にも行くことが無くなってしまおうのではないかと思いました。

僕は日本人ですが、自分の曾祖父母は戦後に日本に来た中国人でした。もし、僕が中国籍だったら、選挙について真剣に考えることはもちろん、家族全員で選挙に行くことさえ無かったと思う。国籍が違うだけで同じ日本で暮らし、同じ日本のルールで生活しているのに、何故それだけで選挙権が無いかは不思議で、到底理解できません。

僕は二十歳になったら、しっかりと選挙に出るつもりです。同じ地域に住みながらも投票できない人のためにも、大切な選挙を眠らせないためにも。

△講評▽

このコンクールをきっかけに中区の選挙について興味を持った沢村さんが、問題としたのが投票率と国籍のことでした。とても大切な問題を自分の家族のことを例にして、取り上げており、大変考えさせられた内容でした。同じ国に住みながら投票できない人がいる現状を多くの人に知ってほしいという強い思いが読むものに訴えかけてきます。沢村さん自身が二十歳になった時、必ず選挙へ行くという決意が伝わってくる作文です。

☆☆☆ 銅賞 ☆☆☆

「満十五歳からの選挙権」

本牧中学校 三年 野田 瑠華

私には、選挙権がありません。それは、私がまだ二十歳を越えていないからです。日本の制度では満二十歳以上の人でない選挙権を与えることはできません。これは、ある程度心も身体も成長し、落ち着いてきた歳だといえるから、国はこのような制度にしたのだと私は思います。

ですが私は、選挙権を満二十歳からではなく、満十五歳からでも良いのではないかなと思っています。

なぜなら、二十歳は、お酒もたばこも許されるのはもちろん、社会的責任を背負わなければならなく、とても忙しく、不安や心配事がたくさんあるからです。

もし、選挙権が満十五歳からだとなれば、二十歳までには慣れ、不安や心配事を持つていても、大丈夫だと思います。

私は、大人の意見だけでなく、今丁度授業で習い理解し始めている「子供の意見」も大事だと思います。

今日は、中国・韓国・ロシア連邦との間で領土についてもめています。この事についてどう思うか、何をしたら良いのか。また、「選挙であの方を選べば、きっと良い方向にもっていつてくれるに違いない」などというように考えていることを、選挙を通してしてもらいたいです。

「自分にはまだ、選挙権がないから関係ない」といつている中学生が五年後、政治に興味を持ち、本当に変わるのでしょうか。

私は、大人になったら考えるのと同時に選挙をするのではなく、満二十歳になるまでに今のうちから選挙に慣れていくことも大切だと思います。

オーストリアのある地域では、満十七歳から選挙権が与えられる制度があるそうです。

この制度の裏には、「若いうちから政治についての考え・興味をもって欲しい」「選挙をして、実際に政治に触れ自立する心を養ってほしい」という国の為にも未成年の為にもなる制度になっています。

もし、選挙権が満十五歳からでは、認められないのだとしたら、ヨコハマ3R夢みたい年齢制限がなく、誰もが取り組めるような、ものをつくり、そこで出た意見を政治に反映してくれたらうれしいです。

私にとって「選挙」とは未知の世界であり、ちょっととした憧れでもあります。

まだない「選挙権」。この権利を授かるときまでには、政治についてもっと興味を持ち、選挙の際に自分がどうするべきか、どうしたいかを考えておきたいです。

△講評▽

満十五歳から選挙権を持つてはという、野田さんの主張、大変ユニークで独創的なアイデアですね。確かに野田さんの言うように「子供の意見」を政治に反映することができたなら、また、若いうちからもっと政治に関心をもっていけたら、今より多くの年代の人の意見が政治に生かされるかもしれません。「ヨコハマ3R夢」を例にあげるなど、今の自分にどんなことができるかよく考えて丁寧にとめられています。

☆☆☆ 銅賞 ☆☆☆

「身近にある選挙」

本牧中学校 三年 遠島 奈都葵

私の学校で毎年九月の終わり頃に行われる「生徒会役員選挙」。今年の選挙では、私は選挙管理委員会の委員長として、選挙のサポートをする。

中学に入って初めての役員選挙。たかが生徒会ごときで選挙なんて、と思っている自分がいた。しかし、当日に私の思っている事は違うんだ、とはっきり分かった。立候補者の「良い学校にしたい」という熱い思いや、演説をきいたり投票したりしている真剣な顔。私はこの学校のそんな選挙の姿をみて、この選挙をサポートしたいと思った。

私達は、五年後には選挙権を手にする事が出来る。およそ百年前だったら、女子の私は一生選挙権を手にする事は出来なかつただろうし、二百年前ならば選挙制度すらない時代。自分達の国の政治を行う者を、自分達の手で選ぶことすらかなわなかつた。

そんな時代の移り変わりによって、平等に手にすることができるようになった選挙権。中学校での生徒会役員選挙の様子を見て、その意味が分かつた気がする。

選挙権は、政治に参加する切符だ。自分が政治家にならなくても、投票という形で政治に参加することができる。民主主義の国である日本で、それは大きな意味を持つのではないだろうか。

もし、選挙権のない国だったら、政治を行う代表者を自分達で選べない。つまり、政治が自分の知らない所で勝手に行われている、という事になるのかもしれない。私にはその事がどのように自分達がなるのかまだ分からないが、学校で考えるとともに嫌な事だ。毎日かよい、生活している学校がどんな方向へ進もうとしているのか、どう良くしていくか決める事はもちろん、考える事すらできない可能性もある。私だったら、もやもやしなから日々を送ることになっているだろう。

こうやって改めて考えてみると、選挙権がある意味が良く分かるのではないだろうか。いや、選挙権に限らず、被選挙権などをふくむ参政権のある意味も分かる。参政権は国をつくるためにあるのだ。

今十五才の私が選挙権を手にするのは五年後だ。しかし、参政権は、今この手の中にある。だから私は、この権利で政治の事を積極的に調べ、将来の国づくりに役立たいと思う。生徒会役員選挙への積極的な参加も、選挙権の予行練習という意味では、国づくりのための大事な一歩となるだろう。

そんな風に考えれば、ほら、選挙が一気に身近なものになったと思わないだろうか。

△講評▽

初めての生徒会役員選挙で選挙への真剣な取り組みを目の当たりにし、三年生になった今年、選挙管理委員長として臨む遠島さん、改めて選挙について考えたことが、自分の言葉で論理的に述べられています。「選挙権は、政治に参加する切符だ」という遠島さんの主張、まさにその通りです。身近な生徒会役員選挙を通して、参政権の大切さが読む側によく伝わってきます。遠島さんの訴えていることを多くの人が理解することでしょう。

・・・審査をふりかえって・・・

今年で三十二回となる「中区明るい選挙推進作文コンクール」には、区内の小中学生を中心に五七四作品が寄せられました。どの部門も昨年よりも応募が多く、総数では昨年に比べて二七二作も多くの作品が寄せられました。みなさんが選挙に関心を持って、作文を書いてくれたことをうれしく思います。

小学生A部門のテーマは「わたしのまちのすきなところ」でした。身近な通学路のこと、登下校で出会う近所の人との触れ合い、いつも遊ぶ公園、買い物をする商店街など身近なものの中から好きなのところを見つけて、しっかりとした文章で書かれていました。どの作品からも好きな気持ち素直に伝わってきました。

小学生B部門のテーマは「より良いまちをつくるために私たちにできること」でした。社会の一員としての自覚を持って、「より良い町を作るためにどうしたらよいか」を考え、「私たちにできること」という点をしっかりと意識して具体的な提案や意見が述べられており、真剣に考えて作文に書いている点がとても頼もしく感じられました。

中学生部門のテーマは「選挙について考える」でした。若者の投票率の低さをどう改善するか、なぜ選挙に行くことが大切なのかを、自分のこととしてしっかりととらえ、考えているものが多くありました。

それぞれの部門のテーマに沿った作文を書くことで、改めて身近な町よさを感じたり、より良い未来のためにできることを考えたり、あるいは、いろいろな資料に当たって選挙について調べたり、改めて選挙について考えたりと、なにかしら新たに得るものがあつたら、うれしく思います。



■作品の選考・講評■

横浜市立間門小学校教諭	猪熊 優介
横浜市立本町小学校教諭	橋本 佳子
横浜市立吉田中学校教諭	星野 幸子
横浜市立富士見中学校教諭	江平 陽子

横浜市中区明るい選挙推進協議会会長	藤原 照男
横浜市中区選挙管理委員会委員長	小島 弘之
横浜市中区長	牧野 孝一



平成24年度 第32回  
中区明るい選挙推進作文コンクール入賞作品集  
平成25年2月発行

発行  
中区明るい選挙推進協議会／中区選挙管理委員会／中区役所  
〒231-0021  
横浜市中区日本大通35番地  
TEL 045-224-8116  
FAX 045-224-8109



あか せんきよ  
明るい選挙キャラクター  
せんきよ  
選挙のめいすいくん



よこはましなか  
横浜市中区のマスコット  
スウィンギー



よこはましせんきよ  
横浜市選挙のマスコット  
イコットちゃん

